

## 第4回モニタリングマニュアル改定ワーキンググループ 議事要旨

〔 日時：令和8年1月29日（木）10：00～11：50  
場所：永田町合同庁舎1階 第一共用会議室 〕

### 1 出席者

（有識者）

赤井 厚雄	委員
浅見 泰司	委員
井出 多加子	委員
大佛 俊泰	委員
村木 美貴	委員

（自治体）

五十嵐 大	委員	
栗田 誠	委員	
西岡 清隆	委員	（代理出席：田中 雅幸）
松村 勝之	委員	

（内閣府地方創生推進事務局）

高橋 謙司	事務局長
松家 新治	審議官
直原 史明	参事官
湯浅 翔	企画調整官
外村 嘉崇	参事官補佐
小山 敦士	参事官補佐

### 2 議事

- (1) 開会
- (2) 議事

＜モニタリングマニュアル改定案の修正等について＞

- ・資料2-1、3～5を用いて、事務局より説明を行った。
- ・資料2-2を用いて、自治体委員より説明を行った。

### ○ 赤井 委員

- ・ ロジックモデルは、一種の仮説検証みたいなものである。

- ・ データの分野は日進月歩なので、内閣府がアンテナを高くして、知見を共有する仕組みをどう作っていくのかが非常に重要である。
- ・ 資料２－２①（仙台市）の３ページで、経済・社会・環境という主要分野ごとに分けて考察しており、どうしても一緒に考察するとぼやっとして、良かったとか、悪かったとか、そういう話にしかないなので、こういった分析のやり方というのは極めて重要だと思う。
- ・ 資料２－２②（岐阜市）の２ページで、「目標値などの設定が困難として設定しなかった指標も残し、モニタリングを行うこととした」とあるが、本当に手を動かしていただくと、こういう気づきが出てくる。その中で、できるだけ客観的な指標の組合せで評価しないと、恣意的な評価になってしまう。これは都市再生だけではなく、地方創生の政策全般にわたって大事なことである。
- ・ 資料２－２③（福井市）の３ページで、「指標データの取得支援」とあるが、これは地方創生推進事務局と会話をしていく中で、本当に必要なものを盛り込んでいく。コストが掛かるのであれば、費用対効果でどうやって捻出するのか、あるいは予算をつけるかを決めていけば、物事が前に進んでいく。
- ・ 資料２－２④（さいたま市）の１ページで、「他部局とのデータ連携で指標設定を強化」とあり、データが特定の部局内だけで閉じられているのではなく、それが連携されていくというのは、一種の文化の前進みたいなものを感じた。
- ・ 自治体の中の職員が、データ分析に関心を持って勉強し、実務を積み重ねながら、だんだん詳しくなって、継続的にそれを見つめ続けるような専門知識を持った職員が生まれるようになってほしいと思う。
- ・ 今後、55地域がそれぞれモニタリングすると、いろいろな気づきやアイデアが出てくる。そうした知見が集約されて、自然に共有され、広がっていくような場をデジタルの空間で作ってほしいと思う。そこに向けての内閣府のリーダーシップが求められる。
- ・ 地方創生分野のDXをどう進めていくのか、それを円滑に進める他省庁との連携のハブみたいな役割が、地方創生推進事務局の業務の重要な柱になってくるのかなと思う。

## ○ 井出 委員

- ・ １点目として、自治体の皆さんが、苦勞して収集したデータが、ある部署もしくはどこかにデータベース化されて、今後蓄積されていく仕組みができていくか伺いたい。
- ・ ２点目として、ロジックモデルを作成されて、データと政策をどういうふうに組み合わせしていくかが明確になったと思うが、他の政策の評価にも同じようにロジックモデルとデータを使った様式を使っているのか、今後使うのか伺いたい。
- ・ ３点目として、担当者が代わってもスムーズに継続できるような人材育成とか仕組みになっているか伺いたい。

- ・ PDCAサイクルの本質は、絶対水準を評価するものではなくて、伸びていくところを評価するものである。
- ・ 全体的にガードレール指標が少ないのかなと気になったので、もう少し住民目線の指標があってもよい。

## ○ 大佛 委員

- ・ ロジックモデルの詳細化が必要と思う。一度、作成したロジックモデルで実施し、指標やデータを集めると、違うことが見えてくることがある。そうすると、ロジックモデルを精緻化してみようとか、考え方を考えてみよう、というようなことをやってみるとよいと思う。
- ・ 自治体の試行結果から、人口は微減、世帯数は増加傾向であるとする場合、これをどう解釈すればよいのか、地域固有の視点から解釈することも必要だと思う。例えば、世帯数は子育て世帯や若年層による増加なのか、高齢者独居による増加なのかで、全然違うことが見えてくる。
- ・ 地価については、都市再生の影響で利便性の向上あるいはインフラ整備が進んだことで、概ね目標達成されているところが多かった。逆に、投機的に地価上昇が先走りしてしまうと、今度は若年層が入ってこないとか、スタートアップ企業が尻込みしてしまうようなことになるので、その裏に潜む因果関係をデータで確認することにつながっていくと思う。
- ・ 今後もロジックモデルの詳細化を実施していただけるように、内閣府からの説明時にアピールしていただくとよいと思う。

## ○ 村木 委員

- ・ ロジックモデルの作成は、正直なところ、手間ではなかったか伺いたい。ここが分かると、大変ではあるが、作成してよかったということ、他の指定地域にも伝えていくときのヒントになる。
- ・ 他部局からデータをもらう努力をされたということで、このモニタリング結果は、データをもった他部局でも使い方によってはモニタリングで使うことができる。それによって、データの構築や共有が、さらに行政の中でできるのではないかなと思う。
- ・ 仙台市の発表に関連して、都市計画マスタープランは、どちらかというと個別開発まで考えていなくて、エリア全体のイメージになっていると思う。指定地域の中で人口が増加しているのであれば、それは都心のどこで増加しているのか、場所を明確にしてモニタリングするという方法もあるかもしれない。また、全体で増加しているのであれば、都市計画マスタープランや、将来の人口の在り方というのが、マーケットとちょっと違っているということになるのかもしれない。

## ○ 浅見 委員

- ・ 私が最初に学生を取ったときに、研究テーマを決めなければならず、最終目標に対する要因を矢印で整理し、ロジックモデルのようなものを作って、研究テーマを考えるようにした。これとロジックモデルは似ているのですが、少し異なるところは、最終アウトカムは行政計画で既に定まっていて、実際の施策は具体的で、それがアウトプット等に関わってくるので、矢印の方向は自ずと少し制御されるところもあるが、ロジックモデルを考えるとよいのかなと思う。
- ・ 仙台市の発表で、指定地域内の人口増加というのは、あまりプラスにしたいくないという話があったが、例えば、昼間人口を使ってモニタリングすることもあると思う。
- ・ 福井市の発表で、優良事例が欲しいという話があったが、自治体によって政策や規模、風土が違うので、自分の自治体の特徴も考慮しながら、他自治体も分析して、参考にする必要があると思う。
- ・ さいたま市の発表であった企業誘致を促進するための指標について、まだ誘致ができていない段階ではないとすると、例えば、実際に誘致した企業数というのは指標として適切ではなくて、その前段階の努力がどういう形で指標化できるかが大事だと思う。一つの方法として、誘致ができるどの段階まで来たか、あるいは誘致のための政策をどれだけやったか。また、競合になるような自治体と比べて、企業誘致に有利な特徴がどれだけ達成できたか、高度な指標であるが結構重要だと思う。

## ○ 五十嵐 委員

- ・ 井出委員の御質問1点目について、今回収集したデータは、次に生かせるように、資料の出所等についてはしっかりと整理している。
- ・ 井出委員の御質問2点目について、具体的には、このロジックモデルを他の政策の評価に活用できていないが、実際にやってみると非常に明確になるので、いろいろと考えていきたい。
- ・ 井出委員の御質問3点目について、担当者に依存するところも一部あるが、組織でカバーして継続性を持たせていくかが非常に重要だと思うので、複数人で取り組んだり、引継ぎをしっかりとやることを考えている。

## ○ 栗田 委員

- ・ 井出委員の御質問1点目について、ロジックモデルを整理し、指標をピックアップしたときに、庁内の関係部署でどこがデータを持っているかを探りながら、収集したことで、どの部署がどういう頻度で更新するデータを持っているかを把握できたので、継続的に実施することで、データを蓄積することができると思う。ただし、村木委員からも話があったように、収集したデータを庁内でどう展開していくかが必要であり、課題だと思う。
- ・ 井出委員の御質問2点目について、村木委員の御質問とも重複するところもあるが、

ロジックモデルは、非常に頭を悩ませながら作成したが、作成すると道筋がクリアになるので非常によかったと思う。岐阜市は、指定地域の外枠に中心市街地活性化基本計画のエリアがあり、このロジックモデルというのは、外枠のエリアの方も当然同じようなものが出てくると思うので、今後、担当部署とのやり取りの中で、今回整理したものを共有しながら、つなげていけたらと思う。

- ・ 井出委員の御質問3点目について、今回のモニタリングマニュアルは、非常に丁寧に解説された形になったので、これを活用しながら、引継ぎ等をしっかりとすることで、クリアできる課題だと思う。

## ○ 田中 委員代理

- ・ 井出委員と村木委員の御質問について、作成したロジックモデルは、後世にも引継ぎたいと考えている。ロジックモデルについては、確かに戸惑ったところもあるが、感覚で評価しないことにつながっていると思う。
- ・ 今後、福井駅の東側では、民間主導でアリーナ建設が行われる。プロバスケットボールチームのメインアリーナになることも目指し、賑わいを増幅させていく施策によって、今後5年、10年というスパンの中で、街の賑わいが思惑どおりに伸びるのかどうか、ロジックモデルを十分に活用して、まちづくりの評価、PDCAを継続して回していこうと思う。

## ○ 松村 委員

- ・ 井出委員の御質問1点目と3点目について、モニタリングシート（様式2と様式3）に、データの種類や取得先等を明記することでデータベース化し、職員が交代しても、モニタリングシートの確認により対応可能とするとともに、参考になる資料等は別途保存している。
- ・ 井出委員の御質問2点目について、市では総合振興計画改定にあたりロジックモデルの作成を求められたが、今回のモニタリングでロジックモデルを作成したことから、他の計画でも対応することができた。

<今後の取組について>

- ・ 資料6を用いて、事務局より説明を行った。

<本ワーキンググループに対しての御感想など>

## ○ 赤井 委員

- ・ 非常に良いものができたと思うが、スマホOSみたいに自動更新されるような仕組みがこれからの姿だと思っている。地方創生推進事務局が、この分野でベストプラクティスを作っていけるように、自治体とコミュニケーションを絶やさないようなものになるとよいと思う。

### ○ 井出 委員

- ・ 自治体DXの推進ということもあるが、最近の人口減少で、広域連携の議論もあるので、部署内に限らず、近隣の自治体も含めて、より地域・エリア全体が強くなっていくために、モニタリング手法をぜひ使っていただきたい。

### ○ 大佛 委員

- ・ モニタリングには、地域固有の視点が必要で、固有のロジックで、必要となる指標は何か、その解釈とか意味付けを行っていくことがすごく重要だと思う。
- ・ こうした取組を支えるために、マニュアルの使い方のフォローアップや、指定地域間で共に支え合い、情報交換ができる交流会、何よりも取組が励みとなるように、毎回のモニタリングをチャンスとして、楽しみに感じていただけると理想だと思う。

### ○ 村木 委員

- ・ 交流会の際に、特に面倒だと思われるロジックモデルについて、実際に作成した効果を自治体の方から説明していただいて、他自治体にも波及させていくことが大事だと思う。
- ・ 私が関係している自治体で、計画策定の途中でロジックモデルを作成してほしいと言ったが、やはり作成されなくて、その価値というのをもう少し理解していただけるようになると、この都市再生だけでなく、活用が広がっていくのではないかなと思う。

### ○ 五十嵐 委員

- ・ 地域整備方針に掲げる目標の達成状況を把握するためには、モニタリングは本当に必要不可欠なものであることを改めて感じた。より効果的・効率的に実施していく上で、今回の改定というものは非常に意義があったと考えている。

### ○ 栗田 委員

- ・ 本市として、特にロジックモデルの見識が深まったと感じている。今後も、指定地域においてより効果的な取組ができるように、改定されたマニュアルを活用して、継続的に取り組んでまいりたい。

### ○ 田中 委員代理

- ・ 福井の賑わい創生については、今後も長きにわたって継続していきたいと思っているので、今回作成をしたロジックモデルも適宜改良を重ねながら、より良いまちづくりのために頑張っていきたい。

### ○ 松村 委員

- ・ さいたま新都心駅周辺地域については、ロジックモデルを作成しモニタリングの指

標も設定したが、今後も改良しながら、企業誘致を進めていきたい。また、委員ご指摘のとおり地盤がしっかりしていることや、関東地方整備局をはじめ、国の省庁が隣にあるという強みを生かしながら、まちづくりを進めていきたい。

## ○ 浅見 委員

- ・ 最後に、私からワーキンググループの総括をさせていただく。
- ・ マニュアルとして、リップサービスもあったかもしれないが、御評価いただき、これを世に出せることが私としては大変嬉しく思う。
- ・ マニュアル自体もモニタリングして、より良いものにしていくことは、今後の活動として必要だと思う。
- ・ マニュアルの改定案ができたことで、これまで以上に自治体において実務性が向上していくのではないかと、また、自治体のモニタリングがレベルアップすれば、解説・事例集の内容も更に充実することになると思う。
- ・ 交流会のような場で、ぜひ良さを上手くアピールして、また、もし残念な点があれば、それもアピールして、マニュアルのモニタリングに生かせるといいのかなと思う。
- ・ 好事例の横展開も重要であるが、モニタリングだけではなくて、都市再生のいろいろな取組で好事例があるので、これについても検討・実施していただければ思う。

<モニタリングマニュアルのとりまとめ>

## ○ 浅見 委員

- ・ 本ワーキンググループの成果として、都市再生緊急整備地域のモニタリングマニュアルのとりまとめは、座長一任でよいか。  
(各委員から賛同)
- ・ それでは、そのようにさせていただく。

(3) 閉会